
ファミリー外

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ファミリー外

【Nコード】
N0656M

【作者名】
川崎ゆきお

【あらすじ】
六十は過ぎているが老婆ではない。

六十は過ぎているが老婆ではない。そういう一人客が深夜のファミレスに連日姿を現す。妖怪変化ではないのは確かだが、何かが変化したことは確かなようだ。

二時を過ぎるとさすがに若い客しかいない。カップルや三人四人客がしめるなか、初老の婦人客は妙だ。変だと思うものの、なかにそういう客が混ざっていても、異常というほどではない。

その婦人は朝までいるようなので、ホームレスかもしれない。紙袋を持ち歩いていることが証拠だ。

その中にはアウトドアに必要な品々が入っているようで、時々取り出しては整理している。

二十四時間営業のファミレスに住み着いたホームレスの話があったが、この店は朝の五時で閉まる。従って、朝までの居場所なのだ。では、この婦人はどこで眠るのだろうか。

女ホームレスの寝床がこの街にあるとの噂もある。取り壊し前の公団住宅や、放置同然のテナントなどだ。

公園で眠っている女ホームレスは少ない。いないかもしれない。さすがにそこは女性で、屋外で人に寝姿を見せたくないのだろう。それで共同の寝所があるらしい。数人の女ホームレスが共同で使っているが、共同生活ではない。

彼女たちがどんな理由でドロップアウトしたのかは分からないが、浮浪者は男だけではないのも確かだ。

さて、その婦人だがファミレスでお茶を飲むだけの現金を持っているし、来店できるだけの衣服も持っている。

まだそこに座れることで、満更ではないようだ。

家があったころは奥様であったり、キャリアウーマンだったのかもしれない。

その婦人はぼさぼさの髪の毛だが、背筋を伸ばしてじっと瞑想し

ている。紙袋内の整理が終わったのか行者のように動かなくなった。
この姿勢のまま朝までいるようだ。

そこへ肌を露出させた中年女が数人入ってきた。乳首が見えそうなほど胸が開いている。それはおしゃれではなく、衣装なのだ。早口で喋りあっているが日本語ではない。彼女らの働く店が終わったのだろうか。

ファミリールレストランも二時三時を過ぎるとファミリー外の客が混ざり込むようだ。

そう語る男も、今夜は帰る家がない。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0656m/>

ファミリー外

2010年10月20日15時37分発行